第31回　親と子の歴史ウォーク

主催：備陽史探訪の会
後援：福山市教育委員会

平成２５年（２０１３）年5月5日

備陽史探訪の会

【事務局】
〒720-0824　広島県福山市多治米町5-19-8
TEL　084-953-6157
E-mail　info@bingo-history.net

公式サイト
http://bingo-history.net

スケジュール

9:00	集合
9:10	開会式
9:30	①最明寺跡
10:10	②権現古墳
10:30	③最明寺板碑
10:45	④中島八幡宮
11:10	⑤宝塚古墳
11:40	⑥二子塚古墳
12:20	⑦池ノ内遺跡
12:30	昼食・クイズ
13:50	⑧四ツ堂
14:10	⑨松林堂
14:20	⑩信岡武平治崇徳碑
14:50	⑪堀の土井城
15:20	閉会式

※行事の進行状況などにより、時間が前後することがあります。

＜参考＞
JR福塩線近田駅　発車時刻
（上り）　15:53　16:24
（下り）　16:05　16:38

③最明寺板碑
④中島八幡宮
⑤宝塚古墳
②権現古墳
⑥二子塚古墳
⑦池ノ内遺跡
昼食
⑧四ツ堂
⑨松林堂
⑩信岡武平治崇徳碑
①最明寺跡
近田駅
⑪堀の土井城跡
近田
福塩線
中島中央
googleMap

①　最明寺跡（さいみょうじあと）

近田駅の北側には、古代の「山陽道」（たとえていえば、古代の国道二号線）が東西に走っていました。山陽道は今から約１３００年前の奈良時代、当時の都である「平城京」を中心に日本列島の各地を結ぶために整えられた道路のひとつです。

これらの道路には，約１６kmごとに「駅家」と呼ばれる施設がつくられていました。「駅家」とは、馬を乗り継ぐための施設です。

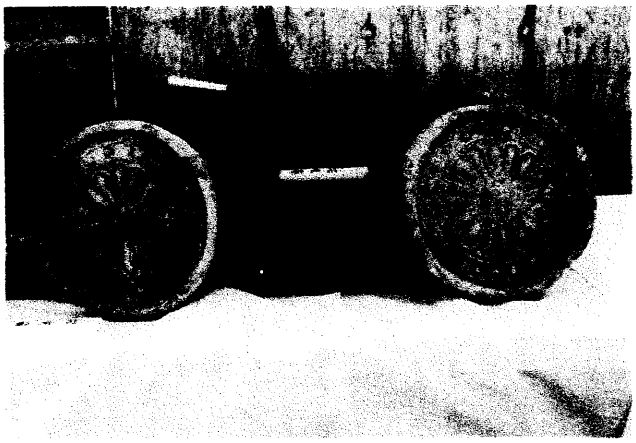
当時の交通手段はもっぱら徒歩か馬でしたから、都と地方を統治する大宰府を行き来する役人は、駅家ごとに準備していた馬に乗り換えることで、大切な情報も早く伝えることができたのです。ですから、駅家は大変重要な施設でした。「最明寺跡」はこの古代の山陽道沿いに残されています。

この遺跡の名前が”跡“なのは、ここから奈良時代のものと見られる瓦が見つかっていて、約１km北にある最明寺というお寺が元々あった場所だといわれているからです。

ところが、この瓦をよく調べてみると、奈良時代に各地に設けられた地方の役所である「国府」や、国を仏教で守るために各地に作られた「国分寺」（備後国では、府中市に「備後国府」、福山市神辺町に「備後国分寺」が作られました）のものと同じ文様をもっているのです。

つまり、この場所は国に関係のある施設があった可能性があり、しかも、山陽道に面していて、最明寺の山号（寺の称号）が「馬宿山」であることから、「駅家」だったのではないかと考えられるのです。駅家を示す建物跡などはみつかっていませんが、今後の調査と研究が期待できます。

最明寺跡南側から出土した瓦



「ふるさと探訪」より

② 権現古墳（ごんげんこふん）

この古墳は、南にのびる小丘陵の先端につくられています。 現在は古墳の石室をおおっていた墳丘が流れてしまっていて、横穴式石室の天井石が見えています。さらに、 石室の天井の石の上には熊野神社がお祀りされています。

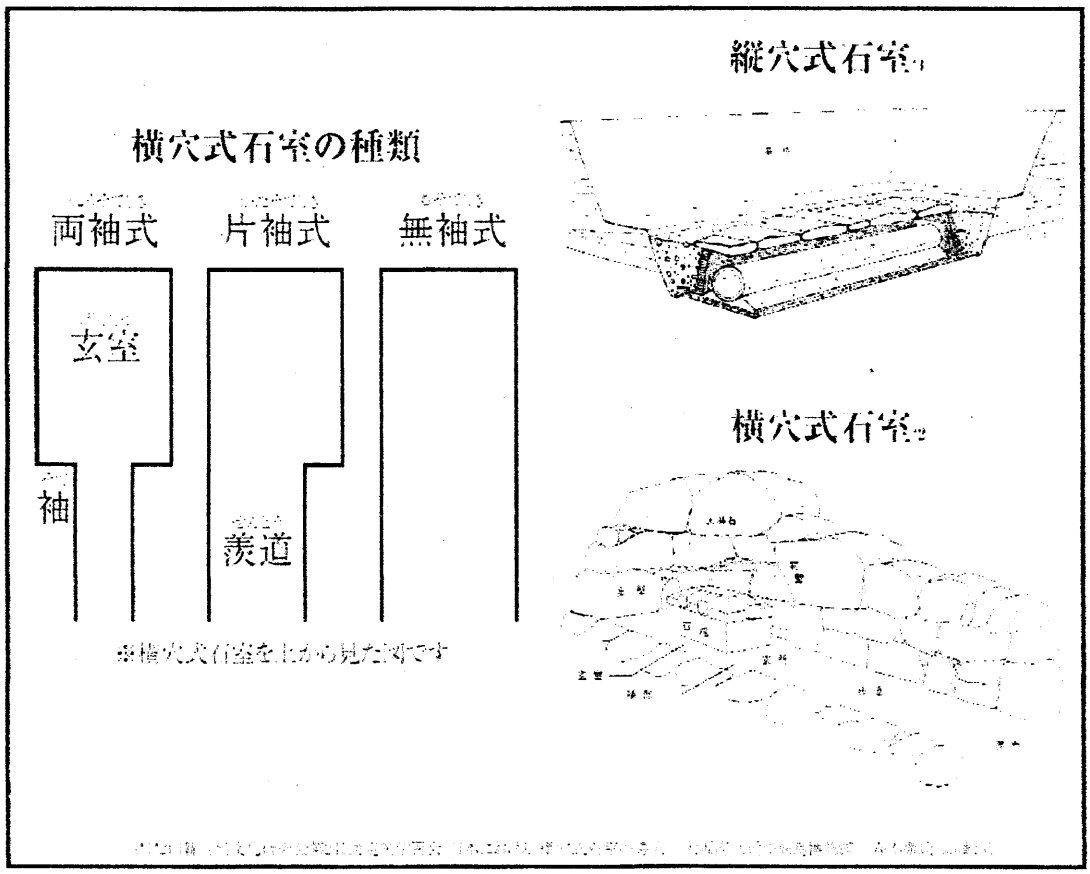
古墳の形はよくわかっていませんが、直径１５ｍを超える円墳（上から見た形が円形の古墳）ではないか、と考えています。石室の中は土でほとんど埋まっていますが、現在残っている大きさでは、玄室（遺体を葬る部屋のこと）の長さ３．２ｍ、幅１．５ｍで、羨道（玄室からの通路のこと）と考えられる石も並んでいます。

出土遺物は確認されていませんが、横穴式石室の形態から６世紀後半頃の古墳ではないか、と考えられています。

ところで、同じころにつくられたと考えている宝塚古墳（P.7）と比べると、権現古墳の方が、作られている場所のながめが良いことがわかります。

これは、権現古墳が周囲の平野部を望むことができる場所にある分、大切にされた、と考えています。これは、古墳に葬られた人の違いなのか、作られた順序の違いなのかは、これからもしっかり研究したいと思います。

＜参考資料＞



③　最明寺板碑（さいみょうじいたび）

板碑とは、もともと供養のために建てられたもので、板状であるために板碑と呼ばれています。また、板石塔婆・青石塔婆とも呼ばれています。

最明寺板碑には向って右から、

「光明遍照十方世界順阿弥陀佛」

「南無阿弥陀佛」

「念佛衆生摂取不捨延文二年七月十七日」

と、文字が刻まれています。

これらの文字により、この板碑は順阿弥陀佛という僧侶が時宗の教えを広める目的で延文２年（１３５７）に立てたことが読み取れます。

なお、各文字の意味は次のとおりです。

光明遍照…救いの光があまねく照らしている。

十方世界…全世界。

念佛衆生…南無阿弥陀仏を唱える大衆。

摂取不捨…仏が見捨てることなく、救い上げること。

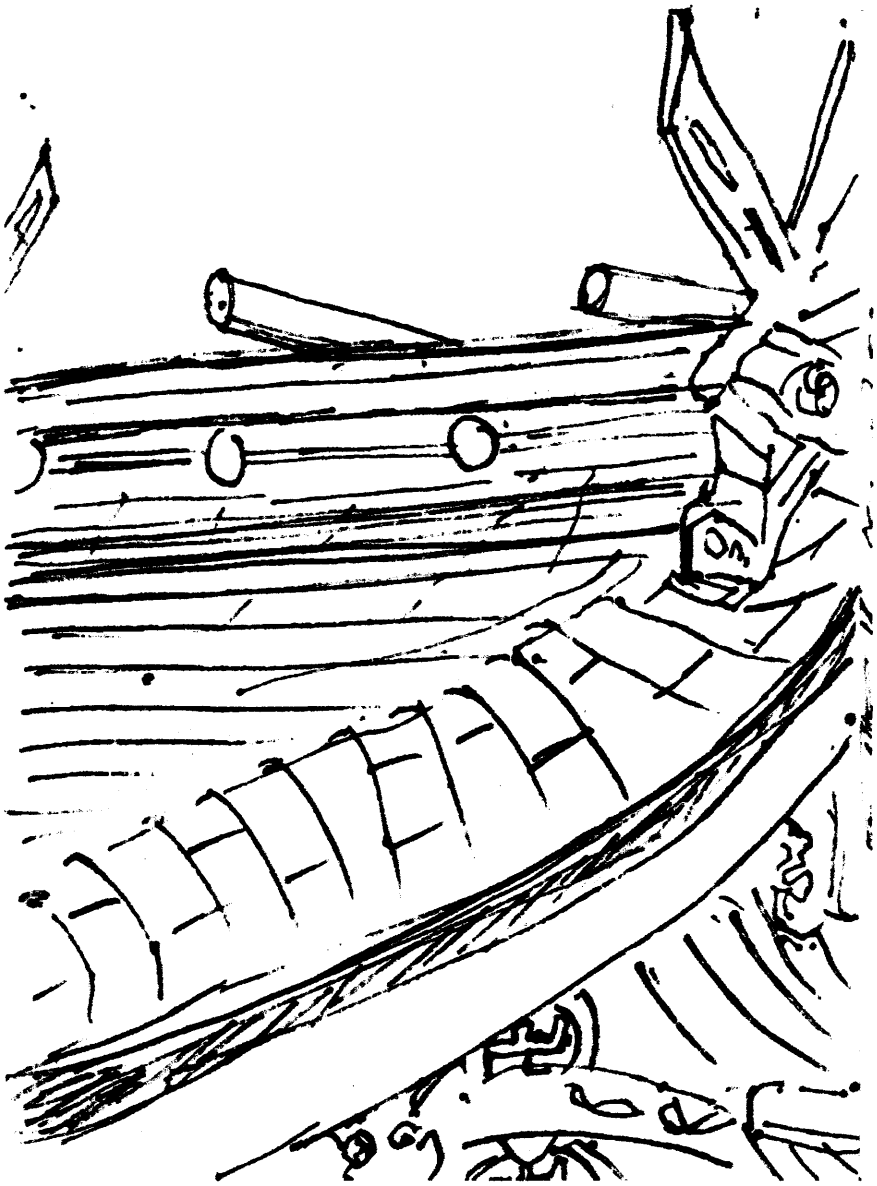
④　中島八幡神社(なかしまはちまんじんじゃ)

八幡神社は大分県宇佐市に祀られている宇佐神宮がルーツと伝えられ、戦いに強い応神天皇を神様として祀っています。

そのため、八幡神社は武士の世となった今から約８００年前の鎌倉時代、鎌倉幕府が国内を支配するために各地に派遣した武士（御家人）によって広まっていきました。やがて八幡神社は豊作の神様、家内安全の神様としても、多くの人々に信仰されていきました。

八幡神社は全国的には宇佐神宮のほか、石清水八幡宮（京都府八幡市）、鶴岡八幡宮（鎌倉市）などが有名です。

この八幡神社は隣の近田八幡神社や万能倉八幡神社と同じく今から約４３０年前の安土桃山時代、駅家町上山守の當島八幡神社から遷されたものです。



⑤　宝塚古墳（たからづかこふん）

弥生ヶ丘団地の北側の丘陵の谷筋を登ったところ、共同墓地の奥側に宝塚古墳はあります。

この古墳は、直径約１５m、高さ約３m。丸い形をした円墳です。古墳の南側に横穴式石室の入り口が見えています。

玄室は、両方の壁に大きな石を３段から４段積み重ねて作っています。長さは約５．５m、幅２．３m、高さ２．３mあります。羨道は、長さ１．９m以上、幅１．４m以上ありますから、二子塚古墳を別格として、この地域では比較的大きな石室であるといえます。

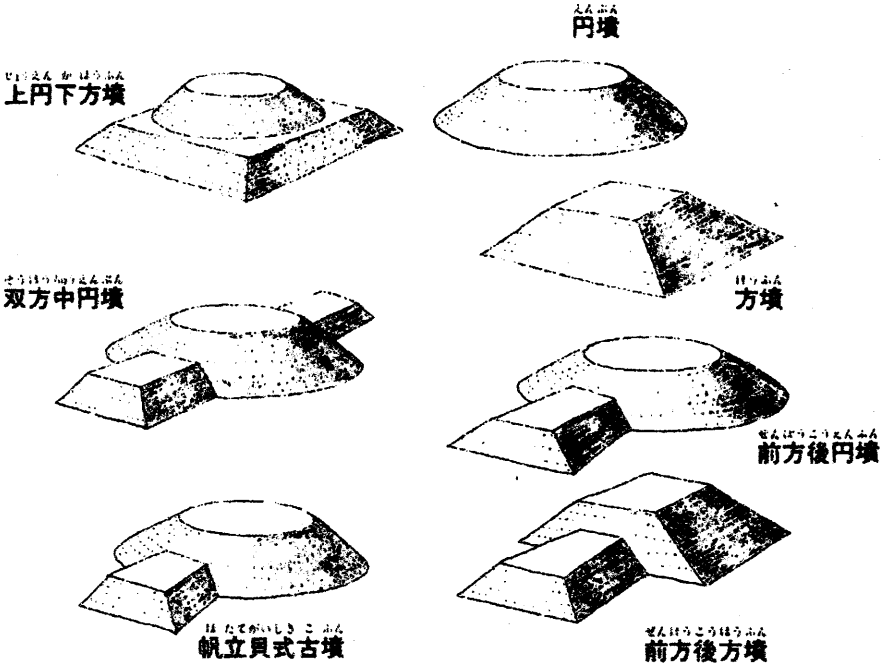
この古墳からは、鉄刀・馬具・須恵器（古代の焼き物）などが見つかったといわれています。

石室の形や出土したものの特徴から、この古墳は６世紀後半に造られたと考えられています。したがって、二子塚古墳よりも１世代以上古い時代の古墳といえます。

二子塚古墳が、芦田川流域を広く見下ろす、大変ながめの良い場所につくられているのに対して、この宝塚古墳は、谷の奥側にあります。

このことから、同じく地域のリーダーのお墓といっても、古墳に葬られた人の勢力の範囲や地位の高さがずいぶん違ったのではないか、と思われます。

様々な墳丘のかたち



「集英社版・学習漫画　日本の歴史２」より

⑥　二子塚古墳（ふたごづかこふん）

「二子塚古墳」は駅家の町を見下ろす弥生ヶ丘の丘陵の上に築かれています。

この古墳は「前方後円墳」と呼ばれる、丸い形（後円部といいます）と四角い形（前方部といいます）が組み合わさった特殊な形の古代の権力者の墓です。

墳丘の全長約６７ｍ、後円部の直径だけでも約４１ｍあります。また、前方部と後円部の両方に横穴式石室があります。後円部の石室は、巨大な石で造られていて、大変に長く（全長約１４．９ｍ）、全国的に見ても大きな規模のものです。

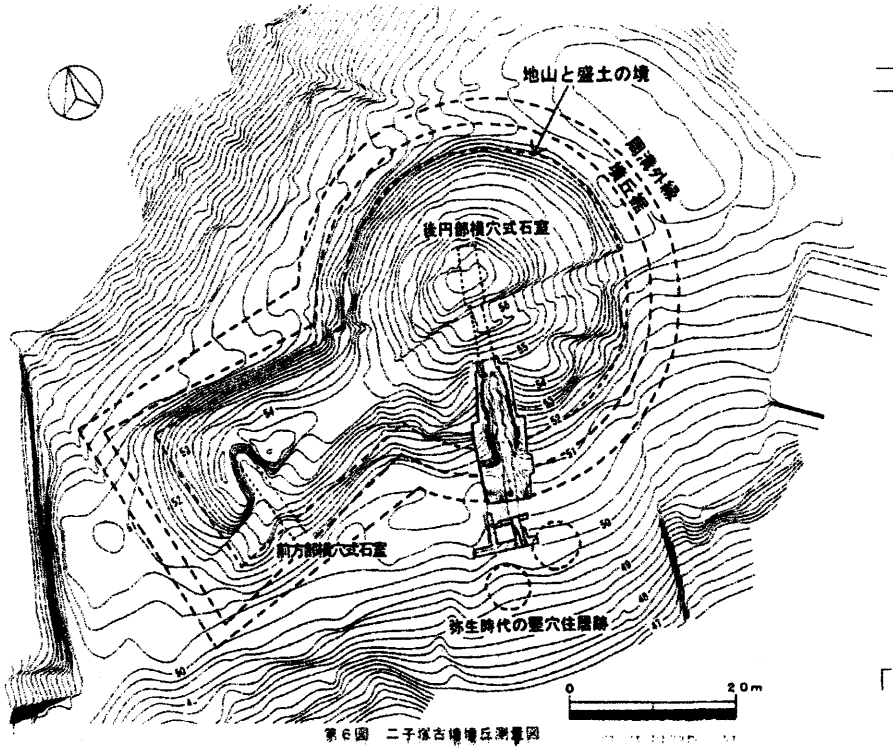
この石室の中からは、板状の石を組み合わせた棺（兵庫県産の石材を使っています）や、たくさんの土器、馬具、太刀の飾りなどが見つかりました。

古墳自体の大きさはもちろん、石室の大きさも広島県内最大級であることから、古代の備後の歴史を知る上で大変貴重な遺跡として国の史跡に指定されています。

この古墳は、今から１４００年ほど前の古墳時代後期の終わりごろ（６世紀後半～７世紀初め）に作られたと考えられています。

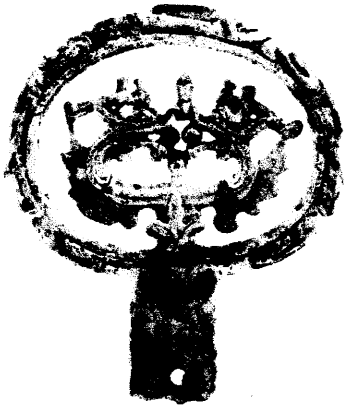
この頃は、古墳時代の中でも終わりごろにあたりますから、全国的に見ても大きな前方後円墳はあまり作られていません。にもかかわらず、この地に巨大な前方後円墳があるというのは、ここに大きな勢力をもったリーダーが存在したことを物語っています。

なお、見つかった太刀の飾りは、龍の浮き彫りが施された大変に珍しいもので、ここに葬られた人物の位の高さが想像できます。



第6図　二子塚古墳墳丘測量図

二子塚古墳出土　双龍環柄頭



「国指定史跡　二子塚古墳」より

⑦　池ノ内遺跡（いけのうちいせき）

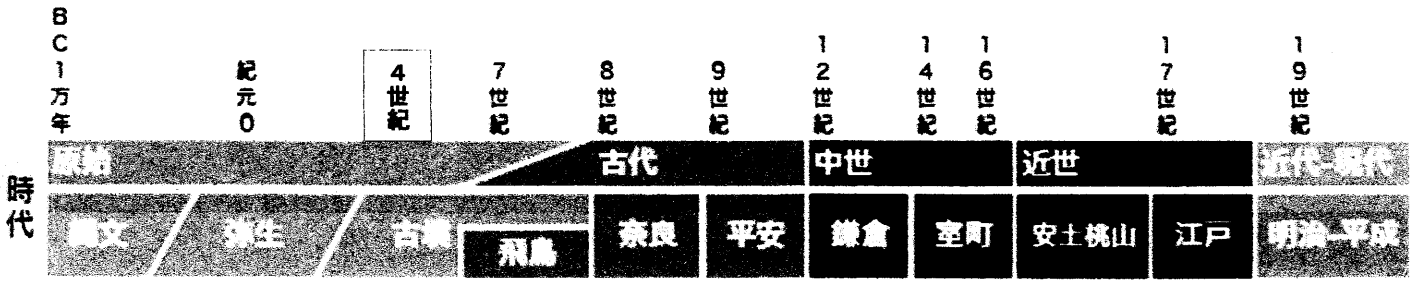
池ノ内遺跡は、弥生ヶ丘住宅団地を作るときの事前の発掘で見つかった遺跡です。池ノ内第１号遺跡からは、弥生時代の竪穴住居の跡約３０軒、古墳時代の円墳４基、壺棺墓２基などが見つかりました。

竪穴住居跡では、当時の人たちが生活用具として使っていた土器と一緒に、弥生時代の石鏃（石のやじり）・石斧・石包丁（稲の穂をつむ道具）などの石製品が出土しました。このことから、すでに今から約２０００年前の弥生時代に、この地に人々が暮らし始めていたことがわかりました。

池ノ内第２遺跡は埋め戻されて、公園になっています。古墳時代前半の壺棺２基、箱式石棺２基が見つかっています。

また、発見された古墳からは、須恵器・土師器といった古代の土器のほかに、馬や家などをかたどった埴輪（形象埴輪）・円筒埴輪などが出土しました。

これらの古墳は、隣の二子塚古墳より１００年以上古い時代のものですが、二子塚古墳に葬られたリーダーの直接の祖先かどうかはわかりません。けれども、立派な埴輪をもっていることなどから、今から１５００年以上前のリーダーたちのお墓であると考えています。



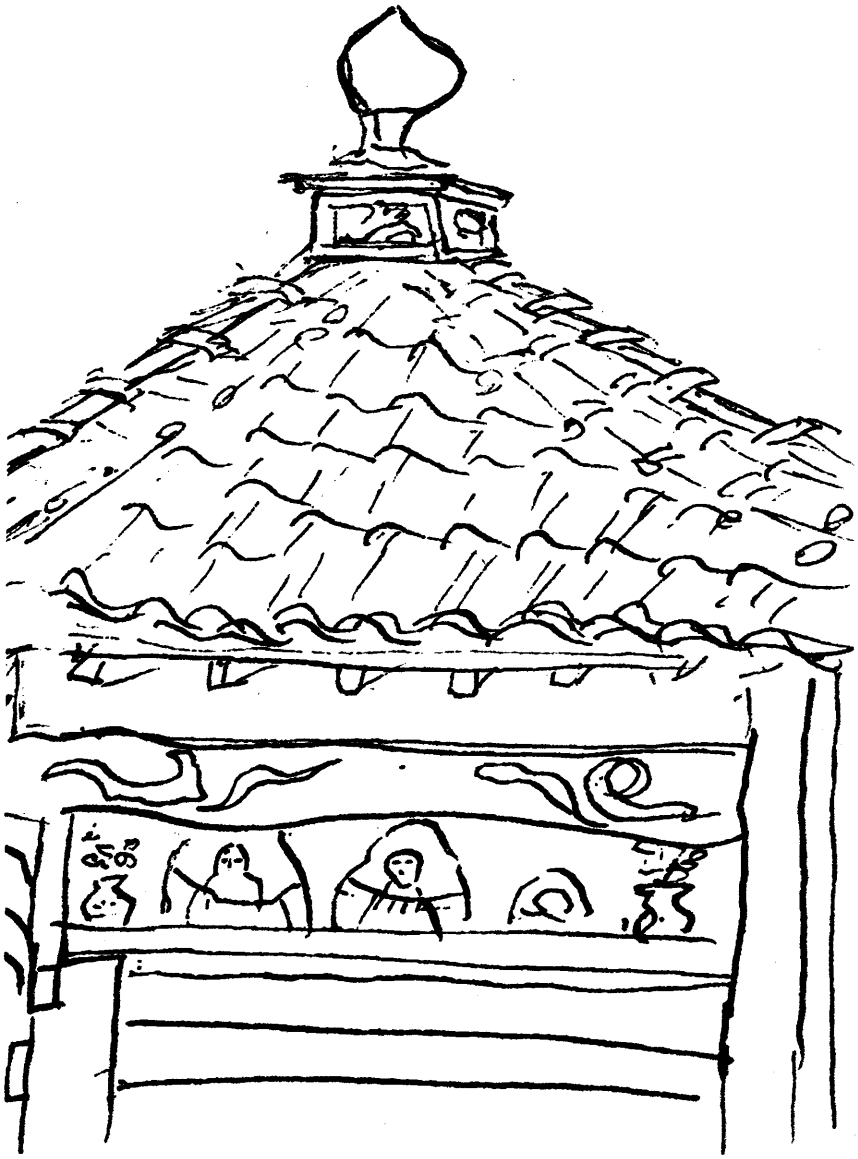
⑧　四ツ堂（よつどう）

備後国（広島県東部）には、江戸時代に「四ツ堂」という建物が数多く建てられ、道行く人々の休憩（きゅうけい）の場所となっていました。

大きさは幅２ｍくらいで、床が四角形のものがほとんどです。四本の柱でできていることから、「四ツ堂」といわれます。また、休憩の場所なので「憩亭（いこいてい）」とも、あるいは道の辻（つじ）（交差点）に多いので「辻堂（つじどう）」ともいいます。

なぜ、この地方に四ツ堂が多いかというと、福山の初代藩主（お殿様）になった水野勝成が青年のころ、この地方を放浪（ほうろう）していて、休む所がなく困（こま）った経験から、たくさん四ツ堂を作らせたからだと言われています。

この四ツ堂は以前はもっと北の峠に近い場所にありましたが、弥生ヶ丘住宅団地の造成にともなって現在の場所に移されています。



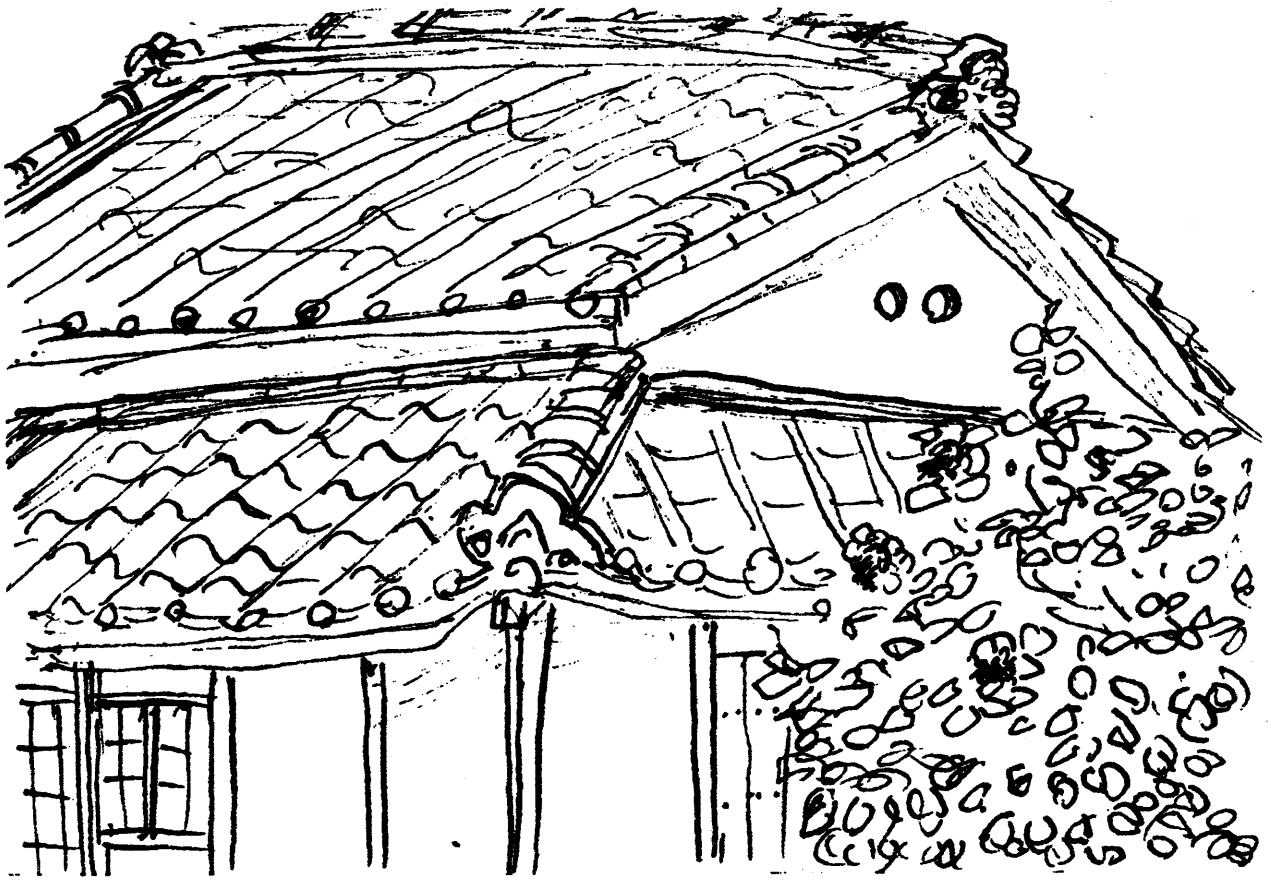
⑨　松林堂跡(しょうりんどうあと)

私たちは６歳になると小学校へ入学し、次に中学校で勉強します。この決まりの元は、武士が政治を行っていた江戸時代が終わったあと、今から１４１年前の明治５年（１８７２）にできました。

江戸時代の人たちは、まだ学校がないので「寺子屋(てらこや)」という施設で、村でよくものを知っている人から、読んだり書いたり、やさしい計算などを教えてもらっていました。

このひとつが「松林堂」で、江戸時代の終わりころに建てられました。先生は信岡武平治(のぶおかぶへいじ)という人で、建物もこの人によって建てられたものです。

福山にはたくさんの寺子屋がありましたが、明治時代になると寺子屋の多くは小学校になりました。そして、この松林堂も小学校になりました。



⑩　信岡武平治の崇徳碑（のぶおかぶへいじのしゅうとくひ）

この「崇徳碑」は、信岡武平治をほめたたえて、のちの世の人たちに知ってもらうために立てられたものです。

江戸時代の終わりごろ、この碑の東側に「松林堂」という塾を「初代」の武平治が開きました。次の２代目の武平治も教育に力を入れてきました。そして、３代目の武平治も教育や地元の近田村のためにつくし、このことに感謝し石碑が立てられることになったのです。

この碑の題字は、有名な「勝海舟」が書いています。文章は郷土の学者である「五十川訊堂」が考えました。

信岡武平治は「おじいさん、お父さん、子ども」の３代にわたって教育や地元のためにつくして村の人たちにしたわれ、尊敬されました。

郷土にこのような立派な人がいて、地元のために力を入れていたことを知ってください。

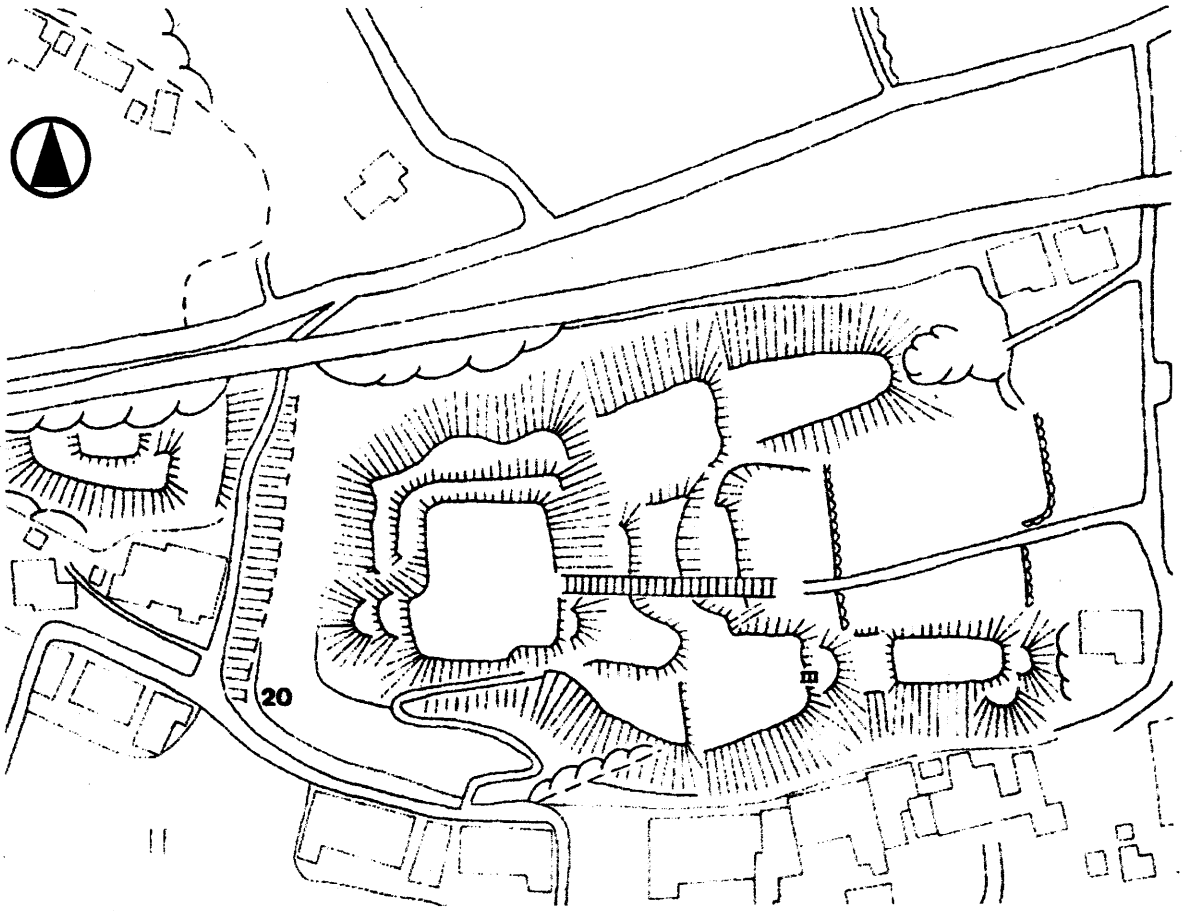
⑪　堀の土井城跡（ほりのどいじょうあと）　堀越城ともいう

城跡には、標高５３ｍの最高所に「主郭」跡と考えられる南北約２５ｍ、東西３６ｍの平坦地があり、本来は２段になっていたようです。ここには、現在近田八幡神社が建てられており、境内の古木の根元にかつての地表と思われる跡が存在しています。神社の拝殿・本殿は大正５年（１９１６）に改築されていて、その時点で境内が再整地され現状の平坦地にされたと考えられます。

城の遺構は、主郭北側の下に西側へ廻り込むように郭が設けられています。この郭は元々２段又は３段であった可能性がありますが、後の改変ではっきりしません。主郭部西南の下にある小郭には３本の竪堀が見られます。主郭跡東側の下にある１段目は郭跡と考えられますが、それより下は後の改変により郭跡なのかよくわかりません。

西側のふもとにある道路と水路部分はかつての城の防御施設である「堀切」跡だと考えられます。

城主については、江戸時代後期に書かれた『西備名区』では「堀越城、近田宗左衛門尉義成・同　宗三郎義次・平賀木工頭隆久・同　九郎左衛門尉」と記していますが、たしかではありません。



「広島県中世城館遺跡調査総合報告書　第３集」より

参考に・・・「備後国」の歴史

ここまで、親と子の歴史ウォークで見学する遺跡をご紹介してきました。

時代順に確認しますと、弥生時代の「池ノ内遺跡」にはじまり、古墳時代の「池ノ内遺跡」→「宝塚古墳」・「権現古墳」→「二子塚古墳」、奈良時代の「最明寺跡」となります。

この間、５００年以上の時間です。と同時にこの期間は、福山南部の地域が「吉備」の一部として発展し、さらに「備後国」として成立した時期にも該当します。

ところで、現在の広島県東部を示す「備後」と、岡山県全体（備前・備中・美作）を含めた地域は、古墳時代の頃には「吉備」と呼ばれていました。

「吉備」の代表的な遺跡が岡山市にある造山古墳。全長約３５０ｍの超巨大前方後円墳で、全国第４位の大きさです。そのほかにも、大形の古墳が数多く作られており、「吉備」の地域は全国的にも古墳の密集地の一つといえます。

古墳時代は、そのお墓の形や大きさがリーダーの力を表していたと考えられていますから、「吉備」には、現在の奈良県・大阪府を中心とする「ヤマト政権」と肩を並べるくらいの強く大きなリーダーたちがいたことがわかります。

瀬戸内海のちょうど中央部、交通の重要な場所を占めていた「吉備」は、同時に温暖な気候と豊かな水に恵まれて農業生産力も高く、さらには、海水を煮て塩を作るという技術も持っていました。福山地方もそうした「吉備」の豊かな文化が栄えていました。宝塚古墳や権現古墳のリーダーたちは、そうした「吉備」の力を支えたリーダーたちの一人といえます。

ところが、古墳時代の後半以降、近畿地方の勢力が強くなっていきます。その結果、「吉備」でも大きな古墳は作られなくなってきます。そうした時に、福山地域では二子塚古墳のリーダーが登場します。このリーダーは、「吉備」の勢力が衰えていく中でも福山地域を拠点にその勢力を強めていったことが推測されます。そのため、豊富な副葬品と大形の石室を持つ「前方後円墳」を築くことができたのだと考えます。そのことが、飛鳥・奈良と時代が移り、「吉備」は前・中・後と３つの国に分かれる中で、福山地域が備後の中心地として位置づけられる基礎となったと考えます。

身近な地域に、さまざまな遺跡が残されています。

それらはすべて私たちの祖先が残してくれたものです。中には、文献資料に名前の残っているものもありますが、いつ・誰が・どのように残したのかわからない物の方が圧倒的に多いのです。ところが、ひとつひとつの遺跡を訪ねて、それぞれの場所に立ってみると、遺跡の方から私たちに語りかけてくれます。

歴史は、教科書の中だけにあるのではありません。

みなさんの住んでいる地域に、今も確かに残されていて、皆さんの訪れを待ってくれているのです。

備陽史探訪（びようしたんぼう）の会は、昭和55年9月、「備後を中心とした地域の歴史を研究し、愛郷の精神を涵養する」ことを目的に創立しました。

現在、「古墳研究部会」「城郭研究部会」「歴史民俗研究部会」の3つの部会を柱として、古代・中世・近世・近代にわたる、地元備後の歴史について調査・研究・学習を重ねています。

備陽史探訪の会では、行事参加のお申込みから、過去の行事報告、
研究資料の閲覧まで、様々なサービスをインターネットで提供しています。

http://bingo-history.net

探訪の会　検索